

令和5年度文教・科学技術予算のポイント(概要)

- 小学校高学年の理科・算数等の教科における「教科担任制」の推進等を図るとともに、教員業務支援員の活用等により教員が授業等に注力できる環境を整備。
- 国大運営費交付金について自ら意欲的に改革に取り組む大学を支援するため共通指標の見直し等によるメリハリ強化を行うとともに、当初+補正で高度専門人材の育成を推進。
- 研究力向上に向けて、若手研究者支援や基礎研究の強化、国際化への政策誘導に加え、量子・AI等の重要先端技術に関する研究機能強化や宇宙分野等の大型プロジェクトを推進。

※ 内容や計数は精査中であり、今後、変更が生じる場合がある。

	令和4年度	令和5年度	差額 (伸び率)
文教及び科学振興費	(注1)5兆3,875億円	5兆4,158億円	+283億円 (+0.5%)
うち、文教関係費	4兆87億円	4兆216億円	+129億円 (+0.3%)
うち、科学技術振興費	1兆3,787億円	1兆3,942億円	+154億円 (+1.1%)
(参考)文部科学省予算	(注2)5兆2,772億円	5兆2,941億円	+170億円 (+0.3%)

(注1)こども家庭庁移管により文教及び科学振興費でなくなった経費(26億円)等を除いている。

(注2)こども家庭庁移管分(47億円)を除いている。

令和5年度文教・科学技術予算のポイント(概要)

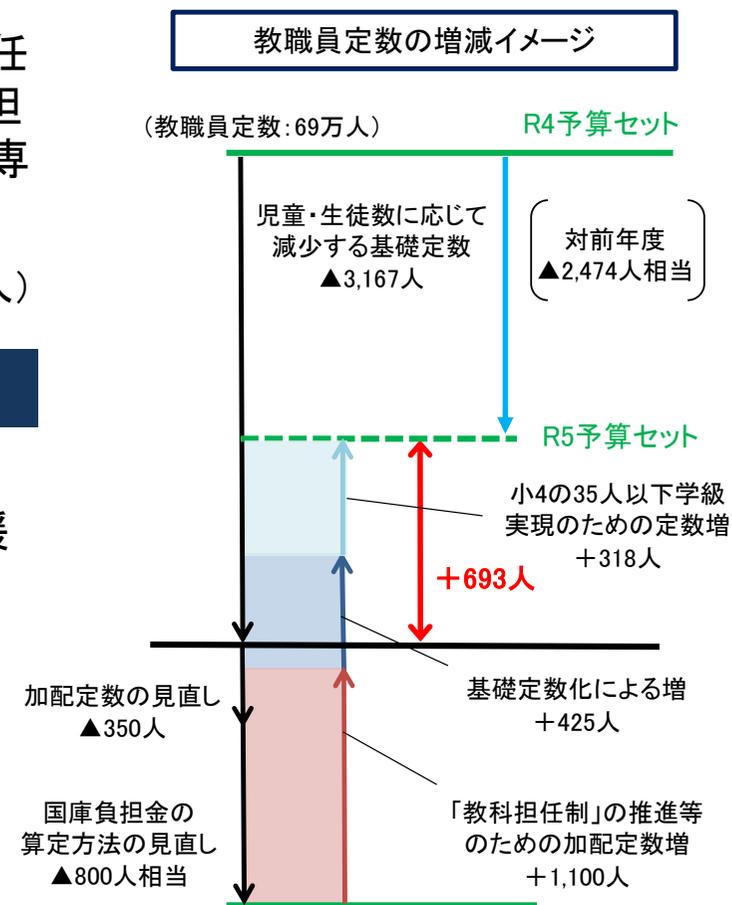
義務教育費国庫負担金 [15,216億円](+201億円)

- 小学校高学年の理科・算数・体育・外国語の教科において、担任間の授業交換や小中連携などの工夫を併せて行いつつ、「教科担任制」の推進を図ること等により、1,100人の教職員定数を改善。専門性の高い授業の実施により教育の質の向上を図る。

(注)小学校4年生の35人以下学級実現のための定数改善も反映(+318人)

学校における働き方改革の更なる推進

- 働き方改革の効果を確実なものとするため、学習指導員を引き続き配置するほか、教員の事務負担軽減のための教員業務支援員の効果的・効率的な配置を推進[91億円](+6億円)。
- いじめや不登校など、様々な課題を抱える児童生徒への支援のため、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの重点配置を拡充するとともに、オンラインを活用した広域的な支援体制を新たに整備[82億円](+5億円)。
- 学校・家庭・地域の連携・協働体制を構築し、地域の多様な関係者の参画による地域の特色を活かした教育活動を支援するため、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)と地域学校協働活動を一体的に推進[77億円](+2億円)。



令和5年度文教・科学技術予算のポイント(概要)

国立大学法人運営費交付金 [10,784億円] (▲3億円)

- 大学を取り巻く環境が大きく変化する中、メリハリ付けの強化等により、自ら意欲的に改革に取り組む国立大学を支援。
 - ①「成果を中心とする実績状況に基づく配分」について、多くの大学が達成している指標の見直しを行う。
 - ②学内組織の学内資源の再配分等を伴う意欲的な教育研究組織の改革を支援する取組を大幅に拡充。
 - ・令和6年度からは「成果を中心とする実績状況に基づく配分」との関連も図りながら、改革に意欲的な大学への支援を強めていく。
- 特殊要因経費の一部(不用建物及び工作物等の撤去に係る費用)の剥落(▲7億円)等がある中、教育研究の充実を図るため、総額をほぼ維持。

次世代のがんプロフェSSIONAL養成プラン [9億円] (新規)

- 高度専門人材育成のための各種の既存施策(例:卓越した博士人材育成支援など)に加え、がん医療の高度化等に対応できる次世代のがんプロフェSSIONAL養成に向け、新たな支援事業を創設。

※ この他、「人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業」(2億円)として、小規模・分散的な専攻が多いという人文・社会科学系大学院の課題を乗り越えるため、他大学等とネットワークを構築して行う教育研究指導やキャリアサポートを新たに支援。本事業については、制度改善につなげることも見据え、事業成果を測るためのKPIについて採択校と非採択校の間で生じる差異等を継続的に把握するなど、戦略的な運用をお願いしている。今後の再推費事業の在り方を考えるためのパイロット事業としての役割も期待される。

※ 令和4年度第2次補正予算において、「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援」に3,002億円を計上。

国立高等専門学校機構運営費交付金 [628億円] (+3億円)

- 60周年を迎えた機を捉え、高専教育の高度化・国際化のため、半導体人材を育成するためのカリキュラム作成支援や海外で活躍できる技術者の育成支援等を強化。

令和5年度文教・科学技術予算のポイント(概要)

科学技術予算(科学技術・学術政策局、研究振興局、研究開発局) [9,780億円](+5億円)

研究力向上に向けた人材育成・研究費支援

我が国の研究力向上に向けて、若手研究者支援や基礎研究の強化を戦略的に実施するとともに、研究者の国際性を積極的に評価し、国際発信をルール化するなど、研究活動の国際化を促す政策誘導を強化。

- 博士後期課程学生の処遇向上と研究環境確保[36億円](+2億円)
 - 博士課程学生への経済的支援や大学の博士人材キャリアパス整備を支援(令和4年度比+約1,000人)
- 科学研究費助成事業(科研費) [2,377億円](同額)

量子・AI・次世代半導体など重要分野の研究の戦略的推進

量子・AI等の重要技術に関する国立研究開発法人の研究機能強化等、重点分野の研究を戦略的に推進。

- 量子コンピュータ・スーパーコンピュータの組み合わせによる研究DX基盤の高度化(TRIP)[23億円](新規)
- AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業[10億円](+1億円)
- 次世代X-nics半導体創生拠点形成事業 [9億円](同額)

大型プロジェクトの推進

宇宙基本計画等を踏まえた基幹ロケットの開発や国際宇宙探査「アルテミス計画」等を推進するとともに、イノベーションを創出し、研究開発の国際競争力を強化するため、先端的な大型研究施設・設備を整備。

- 宇宙・航空分野の研究開発の推進[1,560億円](+2億円)
 - H3ロケットの開発・高度化等
 - アルテミス計画に向けた研究開発や宇宙科学・探査衛星の開発等
- 官民地域パートナーシップによる次世代放射光施設(NanoTerasu)の推進[30億円](+8億円)
- ポスト「富岳」の次世代計算基盤に向けた先行調査研究[10億円](+6億円)

令和5年度文教・科学技術予算のポイント(概要)

スポーツ関係予算 [359億円](+4億円)

- 運動部活動の地域連携・地域移行の推進[25億円](+10億円)
 - 令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行を進めるため、全国で実証事業を実施し、地域の実情に応じた多様な地域移行の方策や関係者間の連携について実践・検証するとともに、地域移行に資する学校施設改修や中学校における部活動指導員の配置等を支援。
- 競技力向上事業[101億円](+0億円)
 - 2024年パリ大会などの国際競技大会等に向け、各競技団体が行う日常的・継続的な強化活動を支援するほか、次世代アスリートの発掘・育成などの戦略的な取組に対する支援を実施。

文化芸術関係予算 [1,077億円](+1億円) ※ デジタル庁計上予算を含む。

- 文化芸術による創造性豊かな子供の育成[84億円](+11億円)
 - 小・中学校等において、実演芸術の巡回公演等を行い、文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供する取組を推進。
- 国立文化施設の機能強化・整備[324億円](+6億円)
 - 文化観光の拠点である国立文化施設の機能の充実・強化、民間資金等の多様な収入源の確保を促進。